



マナウス日本人学校 学校だより

マナウス

2020年(令和2年)10月13日 第2号 文責:校長 柏木 廣喜

学校教育目標

- ・自ら進んで学びとる子ども (知)
- ・礼儀正しく思いやりのある子ども (徳)
- ・心と体を鍛える子ども (体)



「学校再開！教職員・保護者が一枚岩になって！」

休校が続いていた本校ですが、やっと再開の日を迎えました。この間全日コースの子どもたちは、日本への一時帰国や日本国内の学校への編入学、仲良しになった友達とのお別れなど、激動の数ヶ月間だったと思います。また文化コースの子どもたちは、長期にわたる休校、現地校の再開やオンライン授業など、きわめて複雑な環境の中で学びを展開したことと思います。

そのような中ですが、本校も学校を再開いたします。しかし、コロナウイルス(以下、「コロナ」)は収束していませんので、これからは「With Corona」、コロナの存在を認識した上で徹底した感染予防を施し、子どもたちの「学ぶ権利」を保障していくこととなります。

起床時の健康チェック及び登校(入校)時の検温、うがい手洗いの励行(学校・家庭)、マスクの着用及び必要に応じたフェイスシールドの使用、消毒の徹底、適切な換気、ソーシャルディスタンスの確保など、子どもたちに関わる私たち大人(教職員・保護者)が、考えられる限りの感染予防対策を施します。しかし・・・それで完全な「無菌校舎」が完成し、100%安全・安心な学舎を子どもたちに提供できるかということ、それは現実的にブラジルでも日本でも不可能なことです。そこで学校の再開にあたって、下記のことをチームマナウス(教職員・保護者)で共有します。過去に経験したことのない規模とスピードで拡散したコロナと対峙し、子どもたちの学ぶ権利を保障するために最善を尽くしますので、ご理解・ご協力をお願いします。

【学校を再開し、子どもたちの学ぶ権利を保障するための共通確認事項(大人の役割)】

- I 子どもたちが感染源になる可能性はきわめて低い。注意するのはやはり私たち大人。
子どもたちの生活環境・行動及び各種報告をみると、「子どもが先にコロナに感染して家族に広まる」というケースはほとんどないようです。やはり私たち大人が、感染予防に対して率先して範を示し、家族や学校の安全・安心を確保することが肝要です。
- II 子どもたちが自分の心の中に「コロナに対する防波堤を築く」ことを支援するのが大人の使命及び教育の責務。

今の子どもたちにとって必要なこと、それは「大人が提供した100%無菌の環境で生活させること」ではなく、コロナの脅威を十分認識させ、「自分で自分の身を守る知識や知恵を獲得させること」です。言い換えれば、一人一人の子どもたちが「自分の心の中にコロナに対する防波堤を築く」という学びを展開するのを、大人の使命及び教育の責務において積極的に支援することです。教育の力、保護者の協力の中で、「これから生きていく上で必要となる力(生きる力)」を、しっかりと獲得させたいと思います。

III 「信頼」を基盤に。

「学校に関わっている全ての人たちは感染予防に対して十分気を配っている」というお互いの信頼を基盤として、子どもたちの学ぶ権利の保障に向け一枚岩となって取り組みます。私もあらためて自分の生活・行動を振り返り、気を引き締めてまいりたいと思いますので、皆さんも感染の予防について、それぞれの立場でご深察願います。

個人的な話で恐縮です。私は16000人が亡くなった2011年3月の東日本大震災を岩手県で経験しました。あの時、実感をともなって「防災教育」の重要性を認識しました。そして今は「防疫教育」の時です。叡智を結集して子どもたちの「生きる力」を育成しましょう。